実践事例

学校名	福島市立清水中学校		校長名	茅原　秀雄		
住所	福島市南沢又字清水端２３番地		生徒数	４４３	学級数	１６
ＴＥＬ	(024)559-0085	ホームページアドレス		http://www.fukushima.fks.ed.jp		

「研修だよりによるＯＪＴの推進」と「数学科の実践」

１　少人数指導の計画等

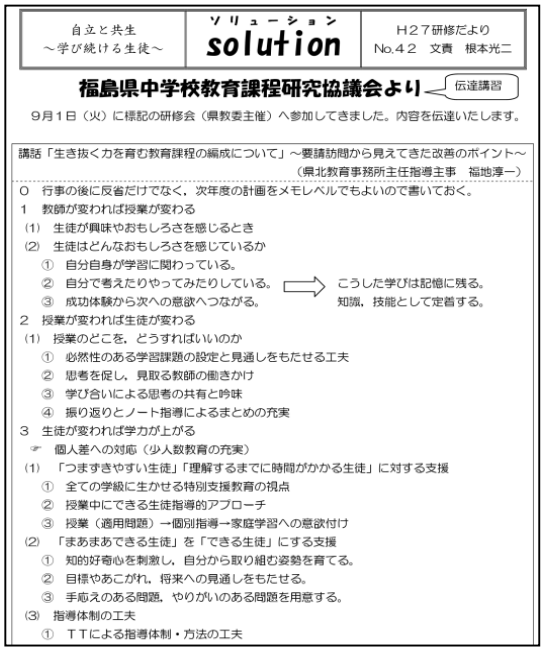
(1)　研修だよりの作成・配付を通して，職員の授業実践力の向上を図る。

(2)　数学科では，福島市教育委員会の学力向上サポート事業を活用し，個に応じたきめ細かな指導を行う。

２　実践の概要

(1)　研修だよりによるＯＪＴの推進

学校を支えてきた経験豊かな教職員の大量退職を迎え，実践的知識や指導技術を組織的・計画的に若手教職員や中堅教職員へ継承していくことがますます重要となっている。さらに，「生徒と向き合う時間の確保」「教職員の多忙化」が指摘される中，研修のための新たな時間や場所の確保が厳しい状況にあることから，教職員一人一人の資質と学校の教育力を向上させるために，校内におけるＯＪＴ（On the Job Training）が大変重要である。そこで，次の内容を研修だよりにまとめて随時発信した。


自立と共生
～学び続ける生徒～

solution（ソリューション）

H27研修だより
No.42　文責　根本光二

福島県中学校教育課程研究協議会より　伝達講習

9月1日（火）に標記の研修会（県教委主催）へ参加してきました。内容を伝達いたします。

講話「生き抜く力を育む教育課程の編成について」～要請訪問から見えてきた改善のポイント～
（県北教育事務所主任指導主事　福地淳一）

0　行事の後に反省だけでなく，次年度の計画をメモレベルでもよいので書いておく。
1　教師が変われば授業が変わる
(1)　生徒が興味やおもしろさを感じるとき
(2)　生徒はどんなおもしろさを感じているか
①　自分自身が学習に関わっている。
②　自分で考えたりやってみたりしている。
③　成功体験から次への意欲へつながる。
⇒　こうした学びは記憶に残る。知識，技能として定着する。
2　授業が変われば生徒が変わる
(1)　授業のどこを，どうすればいいのか
①　必然性のある学習課題の設定と見通しをもたせる工夫
②　思考を促し，見取る教師の働きかけ
③　学び合いによる思考の共有と吟味
④　振り返りとノート指導によるまとめの充実
3　生徒が変われば学力が上がる
☞　個人差への対応（少人数教育の充実）
(1)　「つまずきやすい生徒」「理解するまでに時間がかかる生徒」に対する支援
①　全ての学級に生かせる特別支援教育の視点
②　授業中にできる生徒指導的アプローチ
③　授業（適用問題）→個別指導→家庭学習への意欲付け
(2)　「まあまあできる生徒」を「できる生徒」にする支援
①　知的好奇心を刺激し，自分から取り組む姿勢を育てる。
②　目標やあこがれ，将来への見通しをもたせる。
③　手応えのある問題，やりがいのある問題を用意する。
(3)　指導体制の工夫
①　ＴＴによる指導体制・方法の工夫

①　教科指導

授業改善や教科指導のスキルアップをねらいとして，県北教育事務所が作成した参考資料『「確かな学力」の向上のために』をシリーズ化した。

②　各種調査

全国学力・学習状況調査の結果と傾向（全国，県，市，本校）や，調査から見えた本校の課題などについてまとめ，授業改善の材料とした。

③　研修会

研修の内容をまとめて伝達講習をした。

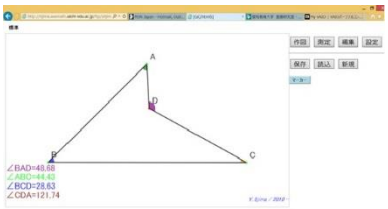
④　特別支援教育

少人数教育の充実のために特別支援教育の視点を取り入れた。

⑤　ＩＣＴ

ＩＣＴ活用の利点やその有効なスキルについてまとめた。

〈 研修だよりの内容を活用した授業〉



２年生数学「平行と合同」の授業において，ＩＣＴ機器を用いて問題を提示した。前時の図形を変形させて図形を動的にとらえられるように工夫した。研修だより等で紹介された手法及びソフトを用いて授業を行った。

(2)　数学科の実践

①　学力向上サポート事業の活用

福島市教育委員会が平成２７年度から学力向上サポート事業を行っている。本校においても平成２７年９月から週１回程度，学習支援員の先生とＴ・Ｔの形で数学の授業を行った。授業は主に問題演習の形で行い，支援員には，つまずいている生徒のフォローや発展問題に取り組む生徒へのアドバイスを中心に指導していただいた。昼休みには，計算が苦手な生徒を中心に個別学習を行った。また，１・２年生の学習内容が身につくように，サポーターに関わっていただきながら「数学トレーニング」という家庭でのプリント学習を行った。

コメントを書いて意欲を喚起していただいたり，生徒の習熟度合に応じた復習プリントや発展プリントを準備していただいたりして，学力向上に努めた。

②　生徒アンケートの結果から

平成２８年３月末に抽出アンケートを行った。「数学トレーニングにしっかり取り組むことができましたか」という項目に，「しっかり取り組んだ」が９名，「ある程度取り組んだ」が２１名，「しっかり取り組めなかった」が０名であった。この結果から，学力向上を目指して意欲的に取り組んだことがわかる。次は，生徒の感想である。

・　サポーターの先生がコメントを書いてくれるので頑張ろうと思った。
・　難しかった。でも力になった。
・　細かいところを説明してあるので復習するのにわかりやすかった。
・　前，解けなかった問題が数トレをやっていたら解けるようになった。
・　やることが多かったが，しっかり取り組めた。

３　実践の成果と課題（○：成果，△：課題）

(1)　研修だよりによるＯＪＴの推進

○　２０代から５０代の職員まで，それぞれの層に気付きや学びがある情報を発信することができた。特に，ベテラン教師たちの意識を向上させることができた。

○　情報を小分けにして，さらに，指導案の作成時期には授業づくりの要点を掲載するなど，タイムリーな発信を心がけたことで，多忙な先生方にも目を通してもらうことができた。

(2)　数学科の実践

○　少人数教育に学力向上サポート事業を連動させて教育活動を行うことで，生徒一人一人にきめ細かな指導が可能になった。

○　Ｔ・Ｔで質問しやすい環境をつくることができたため，生徒が疑問に思うことを授業内で積極的に質問するようになった。

△　支援員と打ち合わせをする時間を確保し，授業内でより効果的な指導をしていただけるようにしたい。

△　支援員のスケジュールと授業の進度を調整し，Ｔ・Ｔが効果的な場面で授業に参加していただけるようにしたい。